

青森県内市場におけるスイカ・メロンの価格について

吉原 雅彦・一戸 賢一・佐々木勝美

(青森県農業経営研究所)

On the Local Market Prices of Water Melon and Melon

Masahiko YOSHIHARA, Ken-ichi ICHINOHE and Katumi SASAKI

(Aomori Institute of Agricultural Economics)

1 は し が き

昭和55年の青森県産スイカは、冷夏の影響を受け品質の低下・消費需要の大幅な減少・価格の暴落など、栽培農家は手痛い打撃を受けた。従って、昭和56年度のスイカ栽培は、作付面積を減少させている。一方、このような中でメロンの栽培は、年次による価格変動も少なく、スイカに比較して有利との判断が働き、作付面積を増加させている。

このような状況をふまえ、これまでの統計資料の整理に産地市場調査を加え、今後の県産スイカとメロンの生産・流通対応に若干の知見を得たので報告する。

2 青森県のスイカ・メロンの流通・市場状況

(1) 最近の県産スイカ・メロンの生産推移

県産スイカ・メロンの作付面積の推移は、表1のとおりである。

表1 最近における主要産地別県産スイカ・メロンの作付出荷の推移

年次	品目別 産地別	ス イ カ										メ ロ ン									
		県 計		木 造		車 力		鯉ヶ沢		その他		県 計		木 造		車 力		鯉ヶ沢		その他	
		作付面積	出荷量	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量
昭和50年		1,780	40,185	904	26,915	53	1,122	100	2,604	723	9,544	478	4,160	140	1,880	15	75	38	485	285	1,720
51		1,800	40,636	853	25,517	66	1,455	168	4,524	713	9,140	425	3,242	110	1,378	12	26	37	411	266	1,427
52		1,570	35,500	688	21,000	62	1,480	170	5,260	650	7,760	601	5,760	254	3,460	18	105	53	645	276	1,550
53		1,370	28,500	558	15,400	68	1,440	150	4,160	594	7,500	600	6,390	235	3,180	20	236	50	656	295	2,318
54		1,420	33,500	595	18,400	108	3,110	150	4,450	567	7,540	621	8,030	260	4,430	23	370	51	817	389	2,413
55		1,184	—	670	—	76	—	150	—	288	—	526	—	330	—	12	—	30	—	154	—
56		1,003	—	600	—	28	—	135	—	240	—	658	—	440	—	27	—	40	—	151	—

注. 1) 「園芸作物統計年報」より、855、56年は県の推定値である。 2) 単位 作付面積：ha，出荷量：t。

まずスイカについてみると、県全体として昭和51年まで作付面積の増加を続けてきた県産スイカは、同年の作付面積1,800ha(出荷量40.6千t)を境に、その後減少傾向を示している。次に、主産地別に県全体に占める作付面積をみると、木造が40～50%を占め最も大きな生産地である。次いで、浪岡が10～12%・鯉ヶ沢が6～11%を占めている。このような、県全体のスイカの作付減少に注目して、木造と比較すると、昭和51～52年に県全体として130ha減少しており、木造でも同様に165ha減少している。更に、この傾向が昭和55～56年にも同様に生じている。

スイカ同様に、メロンの作付面積の推移をみると、県全体として最近5カ年で500ha弱から700haへと増加の傾向にある。次に、主要産地別に県全体に占める作付面積をみると、木造が26～42%で年毎に増加の傾向にある。次いで、鯉ヶ沢が8～9%で比較的増減が少なく安定した作付面積を保っている。また、弘前・車力・浪岡等が5%以下の産地としてあげられる。このように県全体のメロンの増加に注目して、主力産地の木造と対比してみると、県全体で昭和51～52年に176ha増加しており、そのうち木造が144ha

の増加をみている。また、昭和55～56年にかけて同様の傾向がみられる。

以上から、最近における県産スイカとメロンの生産動向を総合してみると、スイカが減少する中でメロンが増加しており、年次・産地・作付面積などはほぼ合致している。このことは、スイカとメロンとの間に一定の関連があるものと考えられる。しかも、年次として共通しているのが昭和51年・昭和55年の冷害年であり、この冷害年を契機に県産スイカの作付面積が減少し、メロンが増加するという代替関係が存在している。また、この代替関係は、スイカとメロンの相互乗り入れでなく、スイカが減少しメロンが増加するという、一方的な代替関係である。

(2) 県内主要都市におけるスイカの取扱量及び単価

最近5カ年の弘前・青森・八戸の3市のスイカの取扱量・価格の推移(表の一部省略)をみたのが表2である。

まず、7～9月の3市の取扱量をみると、5カ年の平均で10.8千tで年次により約1千t強の変動が生じているが、増減などに一定の傾向は認められないようである。3市の中では、弘前市の取扱量が一番多く5～6千tを占め、次

表 2 主要都市における年次別・月別スイカ・メロンの取扱量及び単価

年次 月別	市場別	52			53			54		
		7	8	9	7	8	9	7	8	9
ス イ カ	数量(t)	弘前 1,522	2,884	617	1,893	3,196	92	1,702	3,915	129
		青森 2,195	1,151	106	2,744	1,239	5	2,228	1,148	41
		八戸 715	463	56	1,884	568	11	372	1,066	18
	単価(円)	弘前 91	59	25	109	90	58	83	73	32
メ ロ ン		青森 81	58	19	97	88	56	80	65	53
		八戸 83	57	18	89	82	44	77	73	38
	数量(t)	弘前 628	309	1	697	179	1	659	152	2
		青森 453	193	—	490	130	1	350	138	2
メ ロ ン		八戸 166	157	4	503	201	7	468	281	17
	単価(円)	弘前 148	99	87	144	82	51	167	116	95
		青森 132	102	—	113	71	54	152	96	79
		八戸 138	70	63	129	80	44	160	107	62

注. 県畑園課資料

いで青森の3〜4千tであり、取扱量の最も少ないのが八戸であり1.5〜2.0千tである。

次に、3市の間でスイカの月別取扱量をみると、青森・八戸でその取扱量の盛期が7月にあるが、弘前ではその盛期が8月にある。このように弘前が他の2市とスイカの取扱量や取扱盛期に違いが認められるのは、弘前が県内のスイカの主産地と地理的に近いなど、産地市場としての地物流通のウェイトが高いこと、従って、県外への転送などがかなり含まれた結果と考えられる。

一方、メロンについてみると、7〜9月の取扱量は3市を合計すると昭和50年・1.6千t〜昭和54年・2.1千tへと増加の傾向にあるといえる。また、3市間では弘前、次いで八戸・青森の順に多い傾向にある。メロンの月別推移は、7月が最も高く、次いで8月であり、9月が最も安い傾向はスイカの場合と同様である。

また、3市の主な市場におけるスイカ・メロンの取扱量・単価を調査した結果から、3市の市場共に8月が出荷の最盛期となり、県内の市場で流通する大半は地物で占められていることが判明した。このことから、先の表2のスイカ・メロンの8月の単価で年次間差をみると、スイカの単価は年次により大きな変動がみられるが、メロンはこのような変動が認められない。従って、メロンは、スイカと異なり各年次共、価格の変動が小さく安定していると考えられる。また、メロンの場合ここ数年間、特に7月の価格が比較的高く安定している点も注目される。

(3) 県産スイカ・メロンの出荷時期と価格の推移

特別な栽培様式のものを除くと、県産スイカは、7月中旬からその出荷が始まり、7月下旬〜8月上旬がその最盛期となり、その後出荷量は減少し9月上旬で出荷は終了し

ている。また、メロンも同じような出荷状況をたどるが、品種により6月下旬や9月一杯収穫可能な場合もある。

従って、この出荷期間中の価格の変動について、産地市場として青森中央卸売市場・弘前中央青果(株)の2カ所を選定し、昭和55年・昭和54年の両年次について、旬別に価格の推移をみたのが図1である。

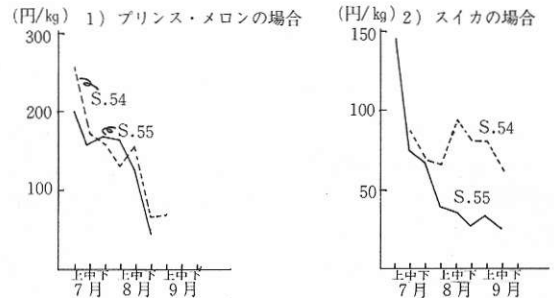


図 1 メロン・スイカの単価の推移 (弘前中央青果)

図1から、メロン・スイカの単価の推移を年次比較すると、メロンは、両年次共ほぼ同じ単価の動きを示している。一方、スイカでは、昭和55年の単価は、昭和54年に比較して著しい低下を示している。その低下の時期が、丁度県産ものの出荷最盛期に入る7月末〜8月上旬にかけてであり、一挙に67円から38円へ暴落している。しかも、このスイカの暴落が7月末〜8月上旬にかけての、ごく短期間に生じていることが判明した。

3 む す び

県産スイカ・メロンの最近における①生産の動向、②県内主要都市での取扱量・単価、③市場における旬別価格の推移などを検討した結果、青森県産スイカ・メロンの今後の生産・販売対策として、次のことが考えられる。

- 1) スイカとメロンは代替関係にある。
- 2) スイカは、年次による価格変動が大きいため、この代替関係は、メロンがスイカに対して置き替るという一方的な関係である。
- 3) メロンの年次による価格の変動は、スイカに比較し非常に小さい傾向である。
- 4) スイカ・メロンの単価は、出荷時期が早いほど高い傾向にある。
- 5) スイカの価格の下落は、極めて短い期間に急激に生じる危険がある。
- 6) 以上からみて、冷夏に対するスイカ栽培農家の対応は、一部スイカからメロンへの転換と、早出し栽培に努めることなどが考えられる。